

平成25年度研究成果中間報告書《平成25・26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	23	都道府県・指定都市名	愛知県
ふりがな 学校名 (生徒数)	あいちけんりつとよたひがしこうとうがっこう 愛知県立豊田東高等学校 (716人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：愛知県豊田市御立町11丁目1番地

電話番号：0565-80-1177

研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：<http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/>

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：5(4)ESD

○研究のキーワード：環境教育，国際理解教育，地域連携教育，多彩な教育課程の設定

○研究成果のポイント：

ESDの視点に立ち，「生徒の主体的な地域課題の解決」を中心に据えた，学校全体で取り組むESDの在り方を追究し，成果をあげた。

【研究の目的，研究内容】

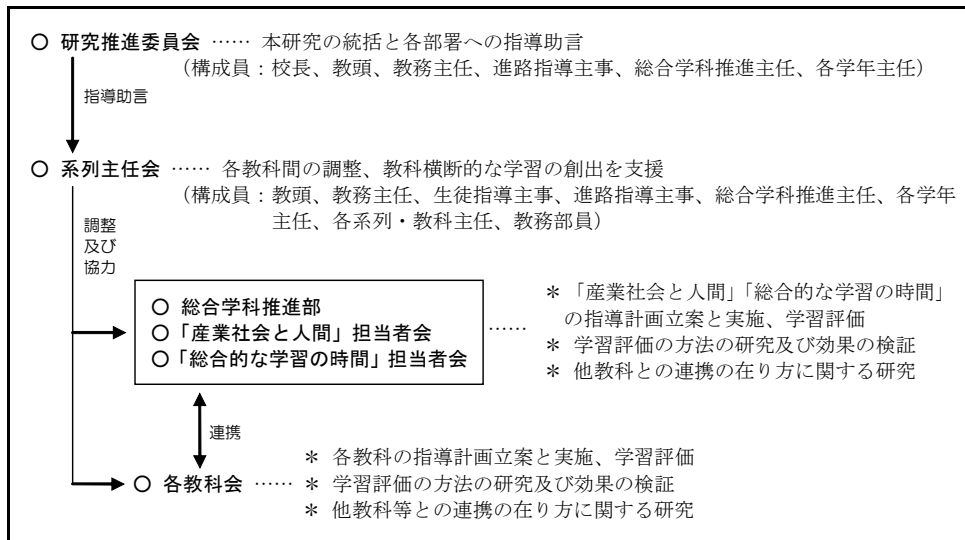
(1) 研究主題

新学習指導要領を踏まえた総合学科におけるESDの体系的な推進及び各教科等における効果的な指導と評価の在り方に関する研究

(2) 研究主題設定の理由

平成25年度入学生から本格的に実施された学習指導要領では，各教科や総合的な学習の時間において，持続可能な社会の実現に関わる課題が掲げられ，各教科等でESDの視点に立った指導を行うことが求められている。それを踏まえ，本校では，学校の教育活動全体をESDの視点から見直すこととし，ESDを推進するために「環境教育」，「国際理解教育」，「地域社会との連携」を3つの柱に設定した。「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の内容を改善するとともに，各教科においてもESDの視点に立った取組を行うこととした。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	5月	事前アンケート，教員全体研修会 ふれ愛フェスタ2013(部活動，科目選択プランより希望者) 【地域連携教育】
	7月	矢作川とその上流の保全(1，2年全体講話) 【環境教育】 中国高校生友好使節団受入れ，オーストラリア姉妹校訪問 【国際理解教育】
	8月	生徒全体に対しての講話「ESDとは」

8月	S P Pで矢作川及び流域の人工林の野外調査（2年生生理系）【環境教育】
10月	矢作川河畔公園の整備活動と活用法の考案（1年生全体）【環境教育】 マレーシア修学旅行での現地校交流【国際理解教育】
11月	アジア・太平洋地域高校生E S Dフォーラム in Sakai 参加
12月	いなかとまちの文化祭，桜町本通り商店街八日市【地域連携教育】 E S D子どもフォーラム（名古屋国際会議場）発表 E S D高校生コンソーシアム（名古屋大学）発表
1月	岡山プレフォーラム，E S Dイヤーキックオフイベント（名古屋）
2月	代表生徒による豊田市長表敬訪問，文部科学大臣との懇談
3月	豊田市矢作川研究所シンポジウム発表【環境教育】

（5）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

E S Dの視点に立ち，地域の課題を解決していく意欲や態度の育成を目指し，地域の環境を保全する活動や地域の活性化に向けた活動を実践した。また，国際理解や基本的な人権の尊重などの教育もE S Dとして位置付け，実践を行った。

本校の取組の特色及び工夫点を以下に示す。

- ・各実践が本校のE S Dの3本柱である「環境教育」，「国際理解教育」，「地域連携教育」に関わるようにする。
- ・豊田市を実践のフィールドとし，河川の生物多様性保全や地元商店街・各種施設の活性化など，地域の課題の解決に向けて行動する意欲と態度を育成する。
- ・成果発表会やフォーラムへの参加を通じて積極的に成果を発信することにより，生徒や教員の自信を深めるとともに実践を推進する原動力とする。

【研究成果とその意義等】

（1）研究成果

- ・「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」だけでなく，各教科でE S Dの視点を取り入れた横断型の授業を開発した。
- ・豊田市の高等学校として，豊田市の地域課題を解決することを目指し，本校におけるE S Dの形を確立することができた。具体的には，豊田市中心部の商店街，矢作川とその流域（特に中山間地）を中心に活動し，豊田市などとの連携が進んだ。
- ・これまでのユネスコや県のE S Dに関する取組に意欲的に参加していたことが評価され，来年度岡山県で実施されるユネスコスクール世界大会高校生フォーラムに中部地域代表として参加することになった。

（2）研究成果の意義等

- ・ディスカッションやロールプレイなどのさまざまな手法を活用したり，外部講師を招いたりするなどのE S Dの視点を取り入れた取組が各教科に広がっている。さらに，生徒は，課題を解決していくことを目指した取組を通じて，主体的に問題を解決するための提案をするなど，これまでに見られなかった生徒の成長が確認できるようになった。
- ・地元での体験的な活動を通じて，生徒は地域社会がつながりをもっていることへの理解を深めた。さらに，地元商店街に自ら出向いて地元を活性化する活動に取り組むなど，社会貢献への意欲が増している。
- ・研究の成果発信の場として，ユネスコや県のE S Dに関する取組への積極的な参加を通じて，生徒や教員の自信を深めたり，意欲を高めたりすることができた。

（3）研究2年目へ向けての課題と改善

今年度は，特に教科「理科」，「家庭」，「看護」，「英語」においてE S Dの視点を取り入れた授業実践を進めた。来年度は，全ての教科で年間指導計画に基づいたE S Dの実践を行っていくとともに，各教科の取組を有機的につなげて体系化していくことが重要である。また，効果的な評価の在り方を研究し，生徒の資質・能力等について質的な変化のみならず，量的な変化を客観的に示すことにより，他校への情報発信とE S Dの普及・定着を図りたい。

